

聴覚検査の参照

なぜ私の赤ちゃんはもう一度聴覚検査が必要なのですか？

多くの赤ちゃんが再検査を受ける必要があります。あなたの赤ちゃんが必ずしも難聴であるとは限りませんが、予定されたフォローアップの予約をすべて守ることが非常に重要です。

最初の検査がうまく行くとはいりません。聴覚検査が妨げられる要因がいくつかあります。例えば、部屋の雑音、赤ちゃんがじっとしていない、または出産後の耳の中の液体やゴミなど。

新生児集中治療室 (NICU) に入院したことのある赤ちゃんは、以前にABRを使用して検査を受けた赤ちゃんはすべて、ABRを使用して検査/再検査を受ける必要があります。

生後1週間から1ヶ月の間に再検査を受けるのが最適です。病院があなたのために再検査の予約を取ります。この間、カリフォルニア州新生児聴覚検査・プログラムの聴覚調整センター (HCC) が、あなたと赤ちゃんが必要なサービスを受けられるようサポートします。

赤ちゃんの再検査予約

赤ちゃんの名前: _____

予約日: _____ 時間: _____

場所: _____

連絡先番号: _____

予約のキャンセル・変更はお電話にてご連絡ください。

再検査の予約を守ることが重要です。

再検査は、赤ちゃんの聴力、発話、言語の進歩を見守るための一つのステップです。難聴は目に見えないものです。現在では、テクノロジーによって難聴を生後間もない赤ちゃんのうちに発見することが可能になっています。

子供の最初の数ヶ月から数年間は、コミュニケーション能力を発達させるのに非常に重要な時期です。難聴や失聴の赤ちゃんは、正常な言語能力の発達が難しかったり、学校での成績が良くなかったりすることがあります。聴覚障害を早期に発見し、赤ちゃんと家族に特別なサービスを提供することが重要なのはそのためです。



私の赤ちゃんの聴覚はどのように再検査されるのですか？

再検査は、赤ちゃんが病院で受けた最初の検査とよく似ています。検査にかかる時間はほんの数分で、ほとんどの場合、赤ちゃんが眠っている間に終わります。赤ちゃん用に特別に作られたイヤホンから静かな音が流れます。音に対する赤ちゃんの反応は、音波音響放射（OAE）または聴性脳幹反応（ABR）によって自動的に測定されます。

赤ちゃんの聴覚再検査に備えるための準備

検査中、赤ちゃんが眠っていると助かります。聴覚再検査の準備として、以下のようなことをお勧めします：

- » 予約の前に赤ちゃんを昼寝させないようにしてください。
- » 検査直前に授乳すると、赤ちゃんが眠りやすくなります。
- » 毛布、予備のおむつ、着替え、粉ミルクの場合は予備の粉ミルクを持参してください。

聴覚再検査の費用は誰が支払うのですか？

新生児聴覚検査の費用は、通常、保険が適用されます。Medi-Calは、対象となる赤ちゃんの検査費用を負担します。

再審査後の流れ

聴覚再検査の結果は、あなたと赤ちゃんの主治医または医療従事者に通知されます。ほとんどの場合、赤ちゃんは再検査に合格するでしょう。一部、より詳細な聴覚診断が必要な赤ちゃんもいます。再検査の結果、聴覚診断が必要であると判断された場合は、再検査の担当者があなたのために検査を予約するか、他の医療機関を紹介します。

子どもの言葉や発話がどのように発達していくかに注意を払うことが大切です。このパンフレットの「月齢別の聴覚と発話の段階」には、ほとんどの赤ちゃんが行う月齢別の行動がいくつか記載されています。

年齢別の聴力と発話の段階

年齢	聴力と発話の段階
新生児から生後3ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> » 静かな音から聞き覚えのある声や音 » 大きな音に反応する、赤ちゃんはびっくりし、まばたきをする、吸うのをやめる、泣くまたは目を覚ます。 » 目覚めているとき柔らかい音を立てて、赤ちゃんがゴロゴロと喉を鳴らす。
3～6カ月	<ul style="list-style-type: none"> » 音、声、音を出すおもちゃ、または犬の吠え声などの方に目や頭を向ける。 » 「ガ」、「オー」、「バ」またはp、b、mの音のような発音ができるようになる。 » 人の声のトーンの変化に反応する。
6～9カ月	<ul style="list-style-type: none"> » 自分の名前に反応し、呼ばれれば顔を上げる。 » 「ノー」、「バイバイ」、「ジュース」といった簡単な言葉を理解する。 » 「ダ・ダ・ダ」、「マ・マ・マ」、「バ・バ・バ」としゃべる。
9～12カ月	<ul style="list-style-type: none"> » 小さな音にも大きな音にも反応する。 » 単一単語を繰り返したり、動物の鳴き声を真似る。 » 尋ねられると、好きなおもちゃや食べ物を指さす。
12カ月から18カ月	<ul style="list-style-type: none"> » 10以上の単語を使用する。 » 「ボールを取って」といった簡単な話し言葉の指示に従う。 » 尋ねられると、人や体の一部やおもちゃを指さす。 » 音楽に合わせてとび跳ねる。

年齢	聴力と発話の段階
18カ月～24カ月	<ul style="list-style-type: none"> » 20以上の単語を使用する。 » 2つ以上の単語を組み合わせる。「もっとジュース」、「それ何？」 » b、g、mといったさまざまな子音を単語の最初に使う。 » 簡単なお話や歌を聞く。
2～3年	<ul style="list-style-type: none"> » 2-3語の文章を使う。 » 2歳になると、大人が多少理解できる程度に話せるようになる。(25%～50%)。 » 3歳になると、大人がほとんど理解できる程度に話せるようになる。(50%～75%) » 「ボールを取ってテーブルに置いて」という2段階の指示に従う。

赤ちゃんの聴力について心配なことがあれば、かかりつけの医師や医療機関にご相談ください。

カリフォルニア州の新生児聴覚検査プログラムは、難聴の赤ちゃんを特定し、生後6ヶ月までにサービスを提供することを目標としています。このプログラムには、家族、医療提供者、病院と協力して、子どもたちが必要なサービスを受けられるための聴覚コーディネーションセンターがあります。

新生児聴覚検査プログラムでは、健康安全法第124119条に基づき、赤ちゃんの聴覚検査に関する情報を収集しています。聴覚コーディネーション・センターは、あなたとあなたの赤ちゃんが必要なサービスを受けられるよう、この情報を利用することがあります。聴覚コーディネーション・センターからフォローアップ・サービスについてご連絡させていただく場合があります。

詳細はこちら：

- » フリーダイヤル 1-877-388-5301
- » または www.dhcs.ca.gov/services/nhsp をご覧ください。